

ICAN Monthly Report II



カフェをオープンした路上の若者たち

路上の若者がカフェをオープン！

<路上の子どもたちの事業：担当職員からのレポート>

マニラ事務所で路上の子どもたちの事業を担当している原です。路上の子ども・若者たちが、長年にわたるパン作りやビジネスマナー等の研修を経て、9月30日にカフェをプレオープンしました。

このカフェでは、常時10~12種類のパンやコーヒーを用意し、本格的なオープンに向けて週3回営業しています。ようやく自分たちの店を持ったメンバーは、ビジネスの成功への意欲に満ち溢れ、その思いを来店者に常々伝えていきます。「路上にいた仲間と一緒にカフェをオープンできて、とてもワクワクしています。カフェは自分にとっての希望で、新しい人生の始まりです。」(ジェイソン/20歳)

しかし、プレオープンを果たした喜びも束の間、メンバーたちは早速、カフェを運営する難しさに直面しています。例えば、メンバー同士の連携が足りず、お客様に注文の品を提供するのに時間がかかってしまったり、マーケティング力が乏しい故に集客数が伸び悩み、多くのパンが売れ残ったりしています。お客様が来店した時にスタッフの姿がホールになく、「いらっしゃいませ」の掛け声がないという指摘を私や他のスタッフがしたこともありました。

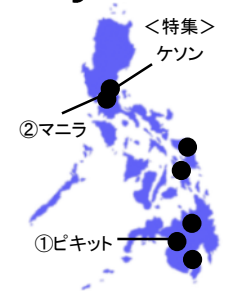
このように、様々な問題がありますが、メンバーたちは、問題の一つひとつクリアするため、営業後にその日の売上や接客態度、宣伝活動について振り返る時間を持ち、改善案を話し合い、日々奮闘しています。メンバー間の連携については、お客様を待たせないよう、ホール、キッチン、会計の各担当が連携してどのように対応すべきかを、営業時間外にシミュレーションしました。また、商品の売れ残りや集客数の増加については、宣伝活動や商品開発についてメンバー間で話し合い、売れ残ったパンを日持ちの良いラスクにし、店の外で試食を兼ねた呼び込みを開始しました。すると、ラスクの味の評判は良く、試食した方がそのまま店内で購入するというケースもあるなど、早速効果が表れました。

路上の若者たちにとって、カフェの運営を安定させるにはまだまだ問題だらけの日々ですが、私は、そんな彼らの新たな挑戦が周囲の人々に理解され、応援されることを願いながら、これからも見守ってきたいと思います。



ICAN マニラ事務所
原理栄子 (はらりえこ)
～プロフィール～
中央大学、フリンダース
大学国際開発学(濠)卒業後、NGOのアフリカ担当職員、フィリピン事業プロジェクトコーディネーター等を経験。
2015年8月より現職。

Project Site



※●はアイキャン活動地
※番号は裏面に対応

認定NPO法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9階 TEL/FAX: 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp
ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

【編集者から一言】2016年2月・3月のスタディツアーの参加者を募集しています。詳しくは上記ウェブサイトをご覧ください。

①紛争地の子どもたち(ピキット)

10月1～3日

平和的な紛争解決方法を学ぶ



MILF (モロイスラム解放戦線) を対象とした3回目の研修を行いました。27名の参加者は、仲裁、交渉、対話等、暴力や武力を用いない平和的な紛争解決方法について、講義やシミュレーションで学びました。研修後、アブドゥラ・サリクさん(38歳)は、「問題が起きた時は、人を責めるのではなく、それがなぜ起きたのかに注目して解決策を探る必要があると学んだ」と語りました。

②障がいを持った子どもたち(マニラ首都圏)

10月30日

視覚障がい児の就学率向上を



約1,000人が参加した国際会議「21世紀の教育:学習者に焦点を当てたパラダイムの促進」において、フィリピンの視覚障がい児教育に関する調査報告を行いました。初等教育就学率が1割以下である視覚障がい児の未就学・中途退学の原因等を報告し、教育省職員からは、「視覚障がい学生のカリキュラムや教員研修だけでなく、未就学児の状況を改善すべきであると分かった」との言葉を頂きました。

今月の ICAN を増やす活動

フェアトレード事業

10月3～4日/東京

今年もグローバルフェスタに出店

日本最大級の国際協力イベント「グローバルフェスタ2015」がお台場で開催され、出店しました。関東及び近郊のボランティア計15名とともに、パヤタスの女性が作ったフェアトレード商品と、フィリピン料理の販売を行いました。スタディツアーの参加であるAさんからは、「フィリピンの現状を見て、できることをずっと探していた。少しでも役に立てたことが嬉しい。」との感想がありました。



MY アイキャン事業

10月31日/名古屋

街頭募金に多くのボランティアが参加!

路上の子どもの保護施設「子どもの家」の設立を呼びかける街頭募金に、小学生から社会人まで43名のボランティアが参加しました。4ヶ所に分かれて2時間活動した結果、330名の方から、いつもの4倍もの額の募金を頂きました。参加者からは、「路上生活をしている方が1円を入れてくれて、感動した」「募金をする人の気持ちになって呼びかけることの大切さを知った」などの声が上がりました。



今月の Topics

名古屋の高校生が路上の若者とスカイプで交流!

10月24日

名古屋北高校の37名が、マニラの路上の若者5名とスカイプで交流しました。互いの国の食文化や将来の夢、路上での辛い事をどのようにして乗り越えたか等の質問もありました。交流後、高校生からは「生き生きとして前向きな姿勢が印象的だった」「心の支えは、友達と一緒に過ごしたり話すことと聞いて、同じだなと思った」等の感想がありました。11月以降、他の学校や日本事務局でも実施していきます。



今月の Media

10月 JICA「mundi2015年10月号」インターン石田の紹介	10月19日 テレビ東京「未来世紀ジパング」インターン石田の紹介
10月 ゆうちょ財団「助成団体活動レポート」路上事業紹介	10月25日 テレビ東京「世界をひらく僕らの一歩」同上
10月4日 まにら新聞 路上の若者のカフェがオープン	10月25日 フリーペーパーPrimer11月号 路上の若者のパン
10月7日 MILF Official Website MILF対象の平和研修	10月25日 フィリピンライマープログ 一日事業地体験案内
10月8日 公明新聞 インターン石田の紹介	10月25日 中日新聞朝刊 路上の若者のカフェがオープン

今月の ICAN なる

◎岡部さん、マンスリーパートナーになってくださり、ありがとうございます!

マンスリーパートナー 岡部倫尚さん

「周りの人に伝えたくて仕方ない」

インタビュー:10月1日

私は、以前から貧困問題を他人事ではないと感じていて、他団体のスタディツアーでカンボジアを訪れたことがありました。その後、ツアーの参加者同士でフリーマーケットの売上をその団体に寄付する活動をしていましたが、アイキャンのマンスリーパートナーである友人から、フィリピンのスタディツアーに行こうと誘われ、2015年8月にアイキャンの事業地を訪れました。

ツアーでは、路上の事業地、中でも線路沿いの光景が印象に残っています。シンナーを吸っている若者や、それに対する周囲の冷たい目を感じ、言葉を失いました。目の前の現状に対して、自分はどうすればいいのだろう、何かしたい、できることはないか、という思いが残りました。

帰国後は、「伝える」ことに力を入れています。自分が見聞きしたものや感じたことを周りの人に話したくて、ツアーの写真を持ち歩いて人に見せて話をしています。また、マンスリーパートナーになり、日本事務局でボランティアもするようになりました。大きなことはできなくても、小さなことでも、喜んで協力させてもらいたいと思います。

